

## 日吉台航空本部等地下壕の保存に関する要望書

2013年5月1日

文化庁長官 殿

神奈川県教育委員会教育長 殿

横浜市教育委員会教育長 殿

日吉台地下壕保存の会 会長 大西 章

横浜市港北区日吉にのこる戦争遺跡、「日吉台地下壕群」の一郭「航空本部等地下壕」の坑口と壕外の未調査施設が、3月末に始まった宅地造成工事のため一部破壊されました。日吉台地下壕群の保存と活用を基底に、25年間調査研究と見学案内などの活動をしてきた「日吉台地下壕保存の会」は、壊された貴重な遺構を目の前にし、無力感と後悔におそわれています。それは全国の研究者や、戦争遺跡保存全国ネットワーク関係者、そして戦争体験者の方々が、共有しているものと思われまます。

航空本部等地下壕が、慶應義塾校地内と南側斜面の民有地に複数の坑口をもつことは、すでに知られていたものの、坑口が地中にあつたため、68年前の姿のまま残された、全国でも稀有な地下壕といえます。慶應義塾側については、2008年体育館建設工事に伴い発見されるや、ただちに工事を一時中止し、諮問委員会を組織し、専門家による発掘調査がなされました。その結果、壕外の諸遺構が初めて明らかになり、義塾は建築位置と工法を変更し地下壕を保存しました。このことは2009年の「戦争遺跡保存全国シンポジウム」で報告され、義塾の文化財保存の積極的な姿勢が高く評価されました。

一方、民有地側であるこの度の工事範囲一帯は、坑口だけでなく周辺の関連遺構の保存状態がきわめて良好な場所でした。この一帯以外に、航空本部等地下壕の坑口一帯の様子を明らかにし、公開できる場所は残されていません。

アジア太平洋戦争終結から70年近く経つと、戦争の実相を伝えるのは、「体験者の直接の話」から「戦争遺跡」に移りつつあります。「日吉台地下壕保存の会」の見学者案内は年間約50回、見学者数は2千～3千人に及びます。中でも最近顕著なのは学生生徒の増加です。この活動を通して、日吉台地下壕群をよりよく活用するためには、可能な限りの壕の公開と資料館の設置の必要性を確信するようになりました。それ以前に、なんとしてもこれ以上の破壊は止めなければなりません。

文化庁は未刊の「報告書」を一日も早く刊行し、「国の評価が未定」との理由で判断が先延ばしにされ、その間にもすすむ遺跡破壊をくいとめていただくよう要望いたします。神奈川県教育委員会と横浜市教育委員会は、行政の力を発揮して、工事を一時中止し、専門家による調査を行い、保存と活用のため文化財に指定し、青少年のために、貴重な歴史学習と自然学習の場をまもっていただくよう要望いたします。日吉台地一帯は、古代から近代までの歴史遺産が重層的に残り、武蔵野の緑豊かな地でもあるからです。